

第66回日本産科婦人科内視鏡・ロボティクス学会学術講演会

会期：2026年9月17日(木)～19日(土)

会場：函館市民会館、函館アリーナ、花びしホテル

会長：横山 良仁 先生(弘前大学大学院医学研究科産科婦人科学講座 教授)

ランチョンセミナー7

日時 2026年9月17日(木) 12:00～12:50

会場 第9会場(花びしホテル2F あかしやAB)

〒042-0932 北海道函館市湯川町1-16-18

婦人科悪性腫瘍手術のNew Era —進化する腹腔鏡・ロボット手術がもたらす 術式選択の最適解—



座長

金尾 祐之 先生

がん研究会有明病院 婦人科 部長

演題1



卵巣がんにおける
内視鏡手術の現在地

鎌田 麻由美 先生

がん研究会有明病院 婦人科 副医長

演題2



Beyond Early Stage

—ロボット手術が切り拓く
子宮悪性腫瘍治療の新境地—

松浦 基樹 先生

札幌医科大学医学部 産婦人科学講座 准教授

●本セミナーは事前申込制です。

詳細は学会ホームページでご確認ください。

<https://www.congre.co.jp/jsgoe2026/>



共催：第66回日本産科婦人科内視鏡・ロボティクス学会学術講演会
科研製薬株式会社

婦人科悪性腫瘍手術のNew Era

—進化する腹腔鏡・ロボット手術がもたらす術式選択の最適解—

演題1

卵巣がんにおける内視鏡手術の現在地

鎌田 麻由美 先生（がん研究会有明病院 婦人科 副医長）

子宮頸がん・子宮体がんに対する低侵襲手術は近年適応が拡大してきている。低侵襲手術が適応となる子宮がんでは、腫瘍が子宮に局限し、術式も子宮摘出・リンパ節郭清を中心に標準化しやすい。一方、卵巣がんでは腹腔内播種を起こしやすいこと、腫瘍の被膜破綻を避ける必要があること、進行癌に対しては他臓器合併切除が高頻度で必要となることが子宮がんと大きく異なる点である。このような背景のもと、卵巣がんに対しても腹腔鏡手術が2025年より先進医療Aとして開始された。卵巣がん手術の本質は低侵襲性ではなく、腫瘍を破綻させず、腹腔内病変を過小評価せず、最終的にcomplete resectionを達成することである。したがって、卵巣がんにおける低侵襲手術は適切な症例選択が重要である。

本講演では、卵巣がんにおける内視鏡手術の現在地と役割について概説する。

演題2

Beyond Early Stage

—ロボット手術が切り拓く子宮悪性腫瘍治療の新境地—

松浦 基樹 先生（札幌医科大学医学部 産婦人科学講座 准教授）

これまで婦人科がんに対するロボット手術は子宮体癌1A期のみが適応であり、限られた症例のみ施行されていたが、2026年度の診療報酬改定により、子宮体癌に対するロボット手術の適応が、従来のIA期のみからIB期の進行症例、および早期子宮頸癌にも広がった。また、子宮体癌、子宮頸癌に対するセンチネルリンパ節生検が承認となり、早期症例ではセンチネルリンパ節生検が標準となる一方、骨盤～傍大動脈リンパ節郭清はより進行した症例に対して施行される機会が増加すると考えられる。したがって、ロボット手術における骨盤～傍大動脈リンパ節郭清や広汎子宮全摘術では、従来以上に安全性と根治性を両立した高度な手技が求められる。当科では、2018年にロボット手術を開始し、現在では3機種を使用して婦人科がんに対するロボット手術を行っている。本講演では、当科で行っているロボット手術の現状と今後の展望について動画を供覧しながら発表する。